

# 訪問看護ステーション 連絡協議会だより

## 第36号

発行年月 2018年9月  
 発行所 岡山県訪問看護ステーション  
 連絡協議会  
 〒700-0805 岡山市北区兵団4-39  
 岡山県看護研修センター3階  
 TEL086-238-6688・FAX086-238-6681  
<http://okayama.houmonkango.net/>  
 E-mail okayama@space.ocn.ne.jp  
 発行責任者 江田 純子

会員の皆様には、協議会の事業につきましてご協力ご支援いただき、平成30年度事業も順調に進んでおりますことを御礼申し上げます。平成30年度診療報酬・介護報酬同時改定は訪問看護がプラス改定になっておりますが、現状や課題をお知らせください。



一般社団法人  
岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

### 平成30年度の 取り組みについて

会長 江田純子

2月の管理者会議では、今回の災害を振り返り、実用的な災害対策を考える機会とし、実用的な災害対策に取り組んでいく予定です。

当協議会は、訪問看護の人材確保・定着、質の標準化のため、今年度新たに訪問看護理解促進事業として、相談会・セミナーに取り組んでいます。また、小児訪問看護拡充事業や管理者基礎研修と精神科訪問看護研修のフォローアップ研修を実施予定です。事業が効果的に実施できるように規定類の整備にも取り組んでまいりたいと考えております。会員の皆様が多数事業にご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

### 賛助会員 からの メッセージ

#### 薬剤師と訪問看護ステーションの 協働への期待

一般社団法人 岡山県薬剤師会  
会長 堀部 徹

社会環境は大きく変化しており、本年はそれに対応すべく地域包括ケアシステムを進めるための医療介護同時改正が行われました。今や薬局も訪問して薬剤管理を行う者がずいぶん増えました。現場では医師・訪問看護師さんたちを中心として多くの職種がチームを組んで在宅医療に取り組んでいます。常に顔を合わせながら医療を提供することは困難ですが、多くの場面では種々の方法で情報交換をしなければ在宅医療は進みません。薬剤師は処方箋調剤をはじめ、OTC（一般用医薬品）、衛生材料等が適切に使用されるように服薬の工夫や薬剤等に関する情報提供を行うことができます。末期がんへの対応では訪問看護師さんと密接な連携が緩和ケアには必要だと思っておりますので、薬剤師は普段から多職種と顔の見える関係作りを努力いたします。訪問看護ステーション連絡協議会のみならず、ご発展を祈念しております。

#### ●新理事の選任

8月25日開催の当協議会臨時総会で、江澤和彦前理事の後任として岡山県医師会理事の内田耕三郎先生が理事に選任されました。

ステーションからの

アーク訪問看護ステーション新保店  
管理者 神崎 ゆかり

当ステーションは、平成26年4月に開設し、今年で5年目を迎えました。

現在、看護師常勤5名、非常勤6名、PT1名体制で動いています。

“アーク”には、“舟”という意味があります。

私達が関わらせていただく、すべての方が安心して目的地までたどり着くことができるようにサポートできる、身近な良きパートナーでありたいと思っています。

自分が望む道をその人らしく生活していただけるよう、一緒に考えていきたいと思っています。

今日も、スタッフ全員、待ってくださっている方たちのお宅を訪問しています。

リレーだより

玉島虹の訪問看護ステーション  
管理者 吉井 桂子

平成28年6月3日、玉島虹の訪問看護ステーションは開設20周年を迎えました。

『20年間支えて下さった利用者・家族の皆さん、地域の医療・福祉・介護事業所の方々に感謝を伝えたい』『今後も共に歩いていく方々とそれぞれの想いを共有できる機会を持ち、訪問看護ステーションをもっと色んな人に知ってもらいたい』という思いからスタッフ全員で話し合い、記念誌の発行と記念交流会を開催しました。新理念も考案し、小児から高齢者まで生きづらいたい全ての人々、“ひとりひとりの生き方に寄り添える訪問看護ステーションでありたい”と、記念誌とホームページに掲載しています。

たくさんの笑顔に囲まれたこの言葉には、20年間分の感謝とスタッフ全員の思いが込められています。

一歩ずつその実現のために頑張っています。



新設のステーション紹介

訪問看護リハビリステーションMITSUYA岡山(岡山C)  
管理者 山邊 桂子

One happiness～一人の幸せを創造する～を理念とし、平成29年7月に岡山市北区田町に開設となりました。現在、看護師4名・作業療法士2名・理学療法士5名、平均年齢33歳の若い力が、お一人の1分を大切に「在宅生活の幸せ」にきちんと向き合いながら訪問させていただいています。

その中で、一人一人が自ら考えて行動し、しっかりとした想いをもち、心身共に寄り添う看護・リハビリをスタッフ一丸となり行っています。精神科訪問看護や自費での訪問リハビリも行っております。今後も、利用者様との関わりの中で成長し、経験を大切に在宅での生活を支えていける存在として日々邁進してまいります。

しんしあ訪問看護リハビリステーション(岡山B)  
管理者 鶴田 節子

平成30年4月に岡山市東区瀬戸町に産声をあげた「しんしあ訪問看護リハビリステーション」は、誠実・真心・優しさ・心からなどの意味を持つ英語から命名されました。地域包括ケア時代のニーズに応える、プラットフォームづくりを目指します。地域に溶け込み、地域の方々と誠実に向き合い、住み慣れたこの地域で安心して過ごしていただけるよう、『自分らしく生きる』をお手伝いします。チームワークを大切に、自己研鑽し、当地の様々な医療・介護・福祉団体との連携を深め、ご利用者様と家族の物語へ寄り添い、「心からの」ベストサポートを目指します。

訪問看護ステーショントワエモア(岡山C)  
伊藤 哲也

当ステーションは、精神科領域専門の訪問看護を行っています。

精神科領域の特性として、病状により自己判断が難しいことも多く、その為社会生活への不安を抱えておられます。その日々の困り事に対して、専門性を持って利用者様が安心して生活できるよう、服薬確認・指導や生活相談、不調時の対応等の様々なサポートを行っています。

今回、倉敷市の大雨被害に遭われた利用者様も数名おられ、それぞれの避難生活状況を通して、改めて精神疾患を持つ方の生活支援の重要性を感じました。

その人なりの自立を目指し、利用者様の希望に対しては、こちらが先に限界を決めるのではなく、叶えるためにはどうすれば良いかを共に考えていく姿勢でサポートすることを心掛けています。

訪問看護ステーションひこうきぐも(勝英津山)  
管理者 金島 寛和

病院勤務をしていた時から訪問に興味があり、今後は在宅医療の必要性を感じていました。母体が大きければ安心はしますが、様々な縛りも多く利用者様が本当に必要としている事が、なかなか実現できないという不甲斐なさを感じていたため、平成27年7月に法人を立ち上げ当ステーションを開設しました。現在、看護師3名、作業療法士3名で運営しています。スタッフ間も仲良く看護の事で分からない事があれば看護師に聞き、リハビリのことで分からない事があればセラピストに聞き、お互いの専門性を生かし、情報共有しながら楽しく勤務しています。また、精神疾患の方の訪問件数も増えてきており、訪問しています。

# 多職種との地域連携の取り組みについて

## 岡山A地区

岡山A地区理事 平野希代子

A地区では岡山市の南区と玉野市の15ステーションが活動しています。以前からワールドカフェや多職種向けの勉強会へ参加していましたが、ここ数年、地域包括ケアシステム構築に力を入れている医師会主催の活動も増えてきました。当地区では、北児島ケアネットのシンポジウムや都窪医師会の勉強会などで、医療・介護サービス、行政関係の方々、社会福祉協議会や民生委員の方々との交流も図っています。まずはそれぞれの役割や仕事内容を理解することから始まり、今後の超高齢化社会をどう支えていくかという議論の場になっています。訪問看護も今後は訪問業務だけでなく地域の看護師としての役割も求められていると感じています。



## 東備地区

東備地区理事 中川美穂子

東備地区は赤磐市、和気町、備前市、瀬戸内市の4市町です。5か所のステーションで活動していますが、和気町にはステーションが有りません。各ステーションとも年数回の地域のケアカフェや病院や市主催の交流会などに参加し、多職種の方と意見交換や情報共有などを行い、顔の見える関係づくりに努めています。また小さいエリアの多職種で毎月ミーティングを行っているステーションも有ります。エリアは広いですが、ステーションは少なく、高齢化も含め問題はいろいろと有りますが、多職種と連携を密にし、在宅で療養される方のより良いサポートができるようにと思っています。

## 高梁新見地区

高梁・新見地区理事 難波京子

高梁市では顔の見える関係作りをスローガンに、市をあげて様々な取り組みを行っています。利用者様の入退院時や、新たにサービスを利用される時には、「高梁版情報共有書」という書式があり、作成後には郵送するのではなく、出来る限り足を運んで手渡しを心がけ、顔の見える関係作りを行っています。また、「晴れやかネット」というインターネットによる情報ツールがあり、積極的に情報を書き込んでタイムリーな情報発信を心がけています。また、年に数回開催される会議の中に、「ワールドカフェ」という名称の多職種連携研修会があり、誰でも気さくに意見交換が出来る研修会となっており、当事業所も積極的に参加し、多職種との連携が図れるよう心掛けています。

# 西日本豪雨災害について

事務局長 岡村 忠彦

7月5日から西日本を襲った豪雨では12会員に被害があり、そのうち2会員（そーる訪問看護ステーション、訪問看護ステーションあんど）が水没全壊、1会員（グッドライフ指定訪問看護ステーション）が床上浸水という甚大な被害を受けられました。

そして、甚大な被害を受けられた会員に対して、次の賛助会員等の方々から多大なるご支援を賜りました。誠にありがとうございました。

（株）大塚製薬工場様：OS-1、2箱／山陽事務機(株)様：パソコン、プリンター（無償貸与）／ティーエスアルフレッサ(株)様：トップニトリルグローブS・M各2000枚／高知県立大学 森下幸子様：御見舞金10,000円／北海道・道南訪問看護ステーション連絡協議会様：義援金60,000円／新見公立大学 栗本一美様：御見舞金10,000円（時系列順）

上記3会員に対しては、その状況に応じて、賛助会員等の方々からのご支援の品々と義援金・御見舞金をお渡しさせていただくとともに、当協議会として、協議会保有の訪問靴セットの無償貸与・消耗品の提供、水害御見舞金の贈呈、（公財）笹川記念保健協力財団から贈呈の訪問靴セットの仲介・立替払を実施しました。

## 被災されたステーションからメッセージ

今回の浸水では、日頃からの備えが重要だと実感しました。たくさんの方々にご心配いただきありがとうございました。

グッドライフ指定訪問看護ステーション  
管理者 信定 みゆき

県内・全国からのご支援のお蔭で訪問看護や地域活動を継続しています。住民の皆さんと一緒にコミュニティの再建に取り組んでいます。

特定非営利活動法人そーる  
理事長 片岡 奈津子

多くの皆様からご支援やご協力、励ましの言葉をいただき感謝で一杯です。少しずつ復旧に向け頑張っています。

訪問看護ステーションあんど  
管理者 浅沼 節子

## 平成30年度広報活動に参加して 広報委員

4月14日・15日「山陽新聞 アクティブシニアフェア2018」、5月3日・4日「おかやま健康フェア 2018」、6月20日・21日「マッチングプラザ2018」、各日委員2名、事務局の方1名と広報活動を行いました。

どのイベントも初日にまず、事務局の方と出展ブースの準備と来場者にお渡しする物（パンフレット、タオル、ポケットティッシュ、ウエットティッシュ、ボールペン）を100部袋詰めしました。血圧測定・握力測定・パルスオキシメーターによる酸素飽和度測定・生活習慣病チェックやマッチングプラザではアロママッサージで集客を図り、健康相談・アドバイスをし、パンフレットを使って訪問看護の宣伝をしました。

呼び込みをしないといけなかなと思いきや、「アクティブシニアフェア2018」214名、「おかやま健康フェア2018」180名、「マッチングプラザ2018」190名と、どのイベントでも行列ができるほどの大盛況で、人数チェックもままならない状態でした。空き時間ができれば、配布品の追加準備や他の出展ブースの見学や体験など、あっという間に時間が過ぎていきました。会場には、介護保険対象年齢の方や同業者、又、学生さんの来場もあり、若いパワーや刺激もいただきました。「これに来るのが今日の目的だったんよ」と時間をかけて相談をして下さる方や待ち時間が長くなり「今日中に順番が来ないかと思った」と言われ申しわけなくも感じたこともありましたが、しかし、広く訪問看護のことを知っていただくよい機会であり、待っているだけでなく、このように活動の場を広げることは大切だと感じました。又、他の委員の接客対応を見て違う学びもあり、初めて参加した委員にとっては新鮮な体験でした。



編集  
後記

この度「西日本豪雨災害」により、亡くなられた皆様のご冥福をお祈りいたしますとともに被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。今回の災害で自然の脅威を感じると共に改めて、ハザードマップの確認や災害マニュアルの再確認、見直しなど、私たちの今後のあり方を考えさせられました。被災に遭われたステーションも復旧に向けて頑張っておられます。皆で応援支援していきましょう。

広報委員一同



訪問看護ステーション  
連絡協議会ホームページ



訪問看護ステーション  
連絡協議会Line@